

第4学年 CHANGE 授業構想シート

授業者 則藤 一起

本実践の主張点	4 A 体育新聞をつかって発信する際、内容や構成について話し合うことで、他者との感覚の違いを知り、自分や他者の情報を大切にしようとするだろう。
---------	---

1. 単元名 4 A 体育新聞を発信しよう！～ちょっと待った！それでいいの？方法は～
2. 4 年 A 組の子ども

今年度から導入された一人一台端末に、ワクワク楽しみながら授業で活用している。初めころは、自分や友だちの写真を撮ったり、ロイロノートでデータを送り合ったりしていた。その際、何気なしに友だちと撮った写真を送る姿があった。また、これまでのロイロノートの送信履歴を見ると、友だちの悪口を書いて送っているという様子は見られないが、取るに足りないことを送っていることは多々ある。4 年生の子どもたちなので、それにいたづらをするということにはなかったが、果たして相手は嫌に思わなかっただろうか。今は、授業でロイロノートを使い、考えたものを交流したり、作品やふり返り、体育での動きを撮って提出したりする使い方が主であり、まだ写真の活用方法や情報のやり取りの仕方については指導していない。

3. 何を学ぶのか

① 単元の目標

4 A 体育新聞づくりにおいて、どの情報を発信すればよいのかを考え、自分の情報や他人の情報を大切にしようとする。

② 教材の価値

これまでの情報モラル授業といえば、ICT 機器の使用手法やネットトラブルなどへの対処といった意味合いが強く、危険性周知と禁止・制限的な内容の指導が大部分を占めていた^{※1}。情報モラル教育推進事業「情報化社会の新たな問題を考えるための教材」の指導の手引きにあるモデルカリキュラム表の中には、「1. 情報社会の倫理」で a2-1 「相手への影響を考えて行動する」、b2-1 「自分の情報や他人の情報を大切にする」という目標（中学年）がある。よって適正に活動するための基となる考え方や態度を育てる必要がある。今回、4 A 体育新聞を発信することを考える際、書く文章や使う写真はどのような内容が適切かを問うことで、自分や他者の権利を尊重する態度が育つと考えた。

※1 「対話的な学びを重視した情報モラル指導用教材の開発と有効性」 豊田充崇
和歌山大学教職大学院紀要 学校教育実践研究 No.3 2018 参考

③ 単元の目標を達成するための情報モラル

4 A 体育新聞を学校の校門掲示板や小学校のHPで発信するという身近な活動を通して、どの写真であれば誰もが嫌な思いをせず発信することができるのか。また、自分は現4年生の段階ではよくても、これから先ずっと残っていく可能性があることや、第三者により勝手に使用されることがあることを知る機会になり、情報を大切に扱おうとする。

4. どのように学ぶのか

① 単元における授業づくりの「しかけ」

これまで4 Aで取り組んできた体育の内容を新聞として発信しようとする中で、誰もが意欲的に4 A体育新聞づくりに取り組むと考える。新聞であり、また体育という活動中心の教科であるので、“文字だけではなく写真を載せよう”と進めていく。その際、どの大きさ・角度なら個人を特定されないか、また今の自分はよくてもこの先ずっと残っていく可能性があることを知らせ、考えさせる。そして“自分はいい”と思う人と、“ちょっと嫌だな”と思う人の感覚の違いに気付かせたい。また、発信方法では、小学校の校門掲示板とホームページの違いについても長所と短所を考えさせることで、上記の載せる写真の話し合いの中心としたい。

② 学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

指導と評価の計画（全8時間） 本時4/8

① 4 A 体育新聞の内容を決めよう～どの単元を発信する？～（主）

②③ 4 A 体育新聞をつくろう～分担して記事をかいていこう！～（主）

④ 載せる写真はこれでいいの？（本時）～ちょっと待った！それでいいの？写真は～（思）

⑤ 写真を選んで完成させよう～これで完璧！4 A新聞～（知）

⑥ 4 A 体育新聞第2弾をつくろう～HPでも発信しよう！～（思）（主）

⑦⑧ 4 A 体育新聞第2弾をつくろう～載せる写真に気を付けて記事をかいていこう！～（思）

5. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・ 4 A 体育新聞づくりを通して、情報発信の方法について理解を深めることができる。	・ 新聞の文章を書いたり写真を選んだりする際、多角的な視点で整理・分析し、目的に合わせ、工夫して表現している。	・ 4 A新聞づくりにすすんで取り組み、自分と違う友達の考えを生かしながら、修正・改善しようとしている。

CHANGE 学習指導本時案

授業者 則藤 一起

日時：令和3年12月16日（木）第6校時（14:45～15:30）

対象：第4学年A組 29人

本時の主張点	4 A 体育新聞に載せる写真について考え、話し合わせることで、友達との感覚の違いを知り、自分や他者の情報を大切にしようとするだろう。
--------	--

1. 本時の構想と学習課題について

前時までに4 A 体育新聞の大部分ができています。本時では、載せる写真を吟味するところから始まる。“自分はいいよ”と思う人と、“ちょっと嫌だな”と思う人がいると考えられる。まず、その点から考えさせ、様々な思いがあることを知る。次に、自分はいいと思っけていても、掲示板に掲示すれば通りすがりの人なら誰でも見ることができ、勝手に写真を撮ることもできることを知らせる。ひょっとしたら悪用されることがあるかもしれないこと・データとして残されるともう消えないことも知り、「それでいいの？写真は」と問うことで、安易に写真や名前を使っていいのか、個人を特定されないような方法はどんなものかを話し合わせる。このことが、自分や友達の情報を大切にできる態度の育成につながると考える。

2. 本時における探究の質を高める場面と授業づくりの「しかけ」について

まずグループで写真を吟味する際、その写真が新聞に相当であるかを考えさせる。“自分の写真を載せたい”と個人の写真だけを載せているグループには、「みんなが載っている写真じゃなくていいの？」と尋ね、“多人数で載せている”グループには、「載せて嫌な思いをしている人はいないかな？」と尋ね、話し合わせる。ここで、自分と他者の思いの違いに気づき、写真を大切に扱おうとする態度を育てる。

次に、選んだ写真から新聞をつくり、全体で共有する時間をとる。そこで、他のグループの考えを自分たちの考えと比べて聞くようにし、グループの思いの相違点を知る。また、アップがいいと考えるグループがいれば取り上げ、「どんなアップでもいいの？」と、名前と顔が一致してしまうことはよいのかを問う。そこで、個人を特定されてしまうと悪用される可能性があることも知る。今まで何気なく撮っていた写真も、友達だから何も思わなかっただろう。しかし撮ったり送ってもらったりして自分の手元に残っている写真を安易に他者に送信しないということもここで考える機会としたい。

3. 本時における情報モラル

- ・相手への思いを考えて行動する
- ・自分の情報や他人の情報を大切にする
- ・情報の発信や情報のやりとりをする場合のルール・マナーを知り、守る
- ・個人の情報は、他人にもらさない

4. 本時の目標

どの写真が適切であるかを話し合うことで、他者との感覚の違いを知り、情報発信の方法について理解する。(知識・技能)

5. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>1. 4 A 体育新聞に載せている写真を吟味する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> ちょっと待った！それでいいの？写真は </div> <p>○ 僕の写真でいいよね。</p> <p>○ 私も使ってほしい。</p> <p>○ じゃあ、みんなが写っている写真にしようよ。</p> <p>○ 僕は載せないでね。</p> <p>○ やっぱりみんなで写っている方が楽しさが伝わるよ。</p> <p>2. 選んだ写真から新聞をつくり直し、全体で共有する</p> <p>○ やっぱり〇〇グループもみんなで写っている写真を選んだようだね。</p> <p>○ でもやっぱり嫌に思っている人はいない？</p> <p>○ もうちょっとルーズの写真の方がいいんじゃない？</p> <p>3. 本時のふり返しをする</p> <p>○ 写真は悪用されることがあるかもしれないから、きちんと選んで使わなければいけないな。</p> <p>○ 自分はいいと思っていたけど、人によっては、使われるのが嫌な人もいるんだな。</p> <p>○ 写真を撮る時は、相手にきちんと聞かないといけないな。</p>	<p>・ 個人の写真を載せているグループには「みんなが載っている写真じゃなくていいの？」、多人数の写真を載せているグループには「嫌な人はいない？」と問うことで、自分と友達との感覚の違いについて気付かせるようにする。</p> <p>・ 同じ意見をもつグループの共感だけではなく、自分たちと違う意見があることを知り、それぞれの感覚の違いについて再度気付かせる。</p> <p>・ 名前と顔が一致するような写真を使っているものを取り上げ、個人を特定されることはよいか問い、情報の扱いについて、より慎重な態度を育てる。</p> <p>・ 写真を撮ったり送ったりすることも、相手のことを考えないといけないことに気付かせる。</p> <p>知 情報発信の方法について理解している。</p>